



# 根室半島の植物と植生

2年ほど前から、根室半島の植物をいくつかの角度から観察し始めました。すなわち、種の生態、地域の植物相とその特徴、そして植物群落或いは植生を記載していくことです。これまでの

データは半分以上未整理の状態で、詳細な議論には至りませんが、ここでは、広く浅く概括的な話題を提供したいと思います。  
(北海道支社自然環境調査室・渡邊 温)

## 研究の目的

根室半島における植物、植生研究は最近ではあまりまとまったものはありません。一方では保護を急ぐべき種や植生が残されており、保護・保全対策を講じようにも、基礎情報に欠けるのが現状のようです。

## 保護対策を急ぐべき植物

多くの種が挙げられますが、キヨシソウは国内でも、根室半島の海岸にしか確認されておらず、本種に関する既往知見もほとんどありません。近年の減少傾向、具体的な保護対策、これに資する基礎的な情報が欠けているのが現状です。最も保護を要する種の一つでしょう。

## 保全されるべき湿原の現状

「日本の重要湿地500」にも根室半島の湿原が数多く挙げられています。しかし、その現状報告や、群落としての記載は野付風連道立自然公園や、落石岬湿原（天然記念物）など一部に限られています。これら以外にも価値の高い湿原植生・独特の植物相が存在しており、情報の集積が望まれます。

## 根室半島の地理的条件と気象の概要

根室半島は、北海道の最東端にあたる場所です。また、南千島が目前に迫り、植物地理学的にも大変興味深い場所といえるでしょう（図1）。  
植物の生育に重要な5月から9月に

かけて、根室沖では親潮と黒潮がぶつかり合い、根室半島に海霧がもたらされます。

この結果、温量指数は50以下、日照時間は600h未満となり、気候帯区分ではほぼ亜寒帯に属します。

標高80mに満たない海岸台地に、亜高山・高山性の植物相が見られるのは、こうした独特の気候特性があるためでしょう。

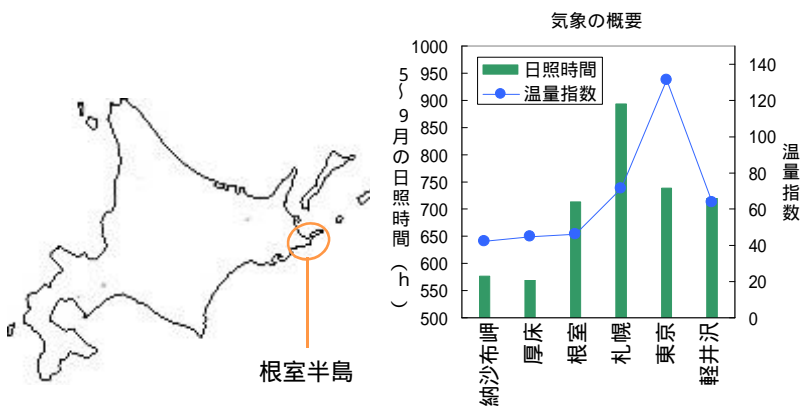
## これまでの調査研究概要

### 根室半島の植物と植生に関する既往研究

根室半島における植物相、植生の研究は古くは1930年代に遡り、その後も散発的に行われてきたようです。しかし、いずれも落石岬湿原のサカイツツジ（天然記念物）や、野付風連道立自然公園など、部分に着目した調査研究がほとんどで、半島全域の植物相を網羅したものとしては「根室市の植物分布」（根室市の自然と文化財p.42-92 森紫朗・北角定吉・小林秀雄 1987年 根室市教育委員会）があるのみです。

### キヨシソウの生態に関する調査

2001年5月、根室でのキヨシソウ探しが始まりました。「根室市の植物分布」によると、分水界で全市を28分割したエリアの内、10エリアに生育が確認されています。3日間をかけ、およそ陸から近づける海岸の岩



位置		広ぼう		面積
北緯	東経	東西	南北	
北 43° 38' 55"	東 146° 26' 28"	100.55km	54.71km	412.68km <sup>2</sup>
南 43° 9' 22"	西 145° 11' 59"			

島名	貝殻島	水晶島	志発島	多楽島	色丹島	国後島	択捉島
距離	3.7	7.0	25.5	45.5	73.3	37.4	144.5

図1 根室半島の地理的条件と気象

キヨシソウ *Saxifraga bracteata* L. は、ユキノシタ科ユキノシタ属の多年草で、海岸のやや湿った崖に生育する。高さは、2~20cmほどで、5月下旬から6月に直径1cmほどの白色花をつける。千島列島、樺太、カムチャッカ、ベーリング海沿岸、アラスカに分布するほか、国内では北海道根室半島及びユルリ島、モユルリ島に限られている。絶滅危惧 類（レッドデータブック・植物。）一説では、過去の薬草業者による乱獲・港湾開発などが減少原因とも言われている。



場という岩場を探し歩きました。現在までに生育が確認できたのは、わずかに4エリアです。15年余りの間に生育地が激減していることになりました。

その後、ある生育地にモニタリングサイトを設置し、2002年6月まで10回以上に及ぶ個体群の動態調査を実施しました。また、訪花昆虫の採取、種子の採取と発芽試験、袋かけ実験などを実施しました。

今後、検討や発芽実験などを行いますが、これまでの結果から考えら

れることを、下記「キヨシソウの生態 - これまでの調査結果から考えられること」にまとめます。

まだまだ追求すべきことが山積みです。まずは、**生活史と繁殖生態**を明らかにしていく必要があります。

また、生育環境を限定する要因の一つに、**岩質の問題**があります。これまでの確認箇所はいずれも風化した脆い堆積岩で、溶岩質の堅い岩には生育していません。

これらのことが何を意味するか？それが判明したとき具体的な保護対策に

近づけると考えています。

### 根室半島の湿原植生と植物相

キヨシソウの調査の際、様々な情報提供や助言を頂いたのが縁で、根室市教育委員会の近藤憲久主任学芸員との交流が始まりました。ある時近藤学芸員から、根室市の植物の総合的な調査を計画していると聞き、自分もお手伝いしたいと考えたのがきっかけです。

「根室市の植物分布」では、市内28地区の植物相を一覧表にしてありますが、私はこの際、群落組成調査を加え、地域の自然環境情報の充実を図ろうと考えたのです。

とは言え根室は広く、植物群落のタイプも決して少なくない。近藤学芸員からのアドバイスは「まずは湿原植生、次に海岸草原」でした。

このうち、調査を実施したのは根室半島湿原、落石西湿原、落石湿原で、5月から8月の各月の植物相、合計33コドラートの群落組成を調査しました。

根室半島湿原は根室市東部、納沙布岬にほど近い半島の背陵部に成立しています。

一方で、落石岬湿原、落石西湿原は根室市西部の半島の付け根付近に位置します。いずれも中層~高層湿原に分類されますが、スゲ湿原~ミズゴケ湿原と言った方が的確かも知れません。両者には大きな違いがあります(p4 表1)。植生上の特徴については、組成表を用いて説明する

## キヨシソウの生態

### これまでの調査結果から考えられること

明らかな減少傾向にあること。

局地個体群レベルでの消滅。

虫媒花であろう。

ハナバエ類、ハナバチ類及びハナアブ類の複数種が訪花する。

栄養繁殖もする。

茎の基部から走出枝が伸び、所々から新芽が形成される。

自家不和合性は示さないであろう。

雌雄同株、等花柱花であり、開花初期には10本ある雄蕊のうち、3~4本で花糸が内曲し葯が柱頭に接する。このことは、**自家受粉を促す現象**としても捉えられる。もし、雌性先熟であれば、受粉しなかった柱頭にのみこうした現象が現れている可能性もある。  
(右上の写真参照)

種子生産数は多い。

1花あたり350~400粒・個体あたり5,000粒に及ぶ。

種子発芽率は室温で99%に達する。

種子は風散布と考えられる。



表1 根室半島湿原と落石西湿原・落石湿原の特徴

湿原名	植生上の特徴	特徴的な植物相
根室半島湿原	スゲ湿原(ホロー)ベースにミズゴケ湿原(ハンモック)が点在する。	エゾノマルバシモツケ、タカネナナカマド、エゾゴゼンタチバナ、ホソバノキンチドリなど
落石西湿原 落石湿原	スゲ湿原(ホロー)と連続するミズゴケ湿原(ハンモック)～湿原性アカエゾマツ林への遷移が進む。	アカエゾマツ、リシリビャクシン、リンネソウ、ゴゼンタチバナ、ミヤマフタバラン、コイチヨウラン、キンチドリなど



落石湿原 アカエゾマツ林の林内

必要があります。また、植物相の解析にもまだまだデータ不足です。詳細は別の機会に譲りましょう。

但し、根室半島の湿原が、遷移段階や微地形、地形条件によって、多様な様相を呈し、それらが生物多様性を育む基盤の一つであることは間違いのない事実です。

植物相に関しては、リシリビャクシンやリンネソウと言ったレリック\*が大変興味深く、これらを育むアカエゾマツ林と共に学術的重要性が再認識されます。



落石西湿原 アカエゾマツ林への遷移



レリック\*分布するリシリビャクシン



タカネナナカマド  
ミヤマナナカマドとの区別を検討中

さらに、「根室市の植物分布」には未記載の、チシマガリヤス、キタノカワズスゲ、ミヤマフタバラン、キンチドリなどを確認しており、小さな収穫を得た感があります。他方、エゾノマルバシモツケ、タカネナナカマドほか数種類については同定上検討の余地を残した状態です。

未だ、根室半島の湿原の半分も調べていません。近藤学芸員からの宿題には、もう一つ海岸草原が残っています。10年以上確認情報のないヤチラン、アツモリソウの再確認も待たれています。根室市の花：ユキワリゴザクラもまた、かつての大群落を失いつつあります。課題は、枚挙に暇なく、道程は続きます。

\*レリック：relic

日本語では「遺存種」「残存種」などと訳されます。レリックの意味は「過去の気候、その他の環境条件から現在までこれら



ミヤマフタバラン

の変化に耐え生き残ってきた生物種」(生態学辞典増補改訂版(沼田真編1999築地書店)より引用)とあります。

リシリビャクシンなどの高山植物の場合、氷河期に広く低地にまで分布していたものが、間氷期の気温上昇によって、現在は高山に分布の中心を移したと考えられています。こうした学説は、根室半島のような低地や礼文島のような島嶼と、高山に共通する植物種の存在を見事に説明しています。

参考文献

- ・佐竹義輔ほか 1982年「日本の野生植物 草本 離弁花類」平凡社
- ・環境庁自然保護局野生生物課 2000年「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 植物 (維管束植物)」
- ・北海道 平成13年「北海道の希少野生動物 北海道レッドデータブック 2001」
- ・東正剛ほか 1993年「生態学からみた北海道」北海道大学図書刊行会
- ・北海道泥炭地研究会 1988年「泥炭地用語辞典」エコネットワーク
- ・栗田昌輝・近藤憲久 1999年「自然ガイド 野付 風蓮 根室」北海道新聞社
- ・森 紫朗・北角定吉・小林秀雄 1987年「根室市の植物分布」(根室市の自然と文化財) 根室市教育委員会
- ・田中瑞穂 1975年「落石岬のサカイツツジ自生地植物調査報告書」根室市教育委員会
- ・環境省インターネット自然研究所「日本の重要湿地500」<http://www.sizenken.biodic.go.jp/>